

受益者の皆さまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「インベスコ 世界インカム資産ファンド(毎月決算型)」は、このたび、第12期の決算を行いました。

当ファンドは日本を含む世界の様々な債券、株式等を実質的な主要投資対象とし、安定した収益の確保と投資信託財産の着実な成長を図ることを目標として運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



交付運用報告書

第12期末 (2017年3月21日)	
基準価額	10,704円
純資産総額	45百万円
第7期～第12期	
騰落率	15.9%
分配金(税込み)合計	600円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

第7期 (決算日 2016年10月18日)

第8期 (決算日 2016年11月18日)

第9期 (決算日 2016年12月19日)

第10期 (決算日 2017年1月18日)

第11期 (決算日 2017年2月20日)

第12期 (決算日 2017年3月21日)

作成対象期間 (2016年9月21日～2017年3月21日)

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、インベスコ・アセット・マネジメント株式会社のホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

＜運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法＞
右記＜お問い合わせ先＞のホームページにアクセスし、「ファンド一覧」等から運用報告書(全体版)を閲覧およびダウンロードすることができます。

インベスコ・アセット・マネジメント

東京都港区六本木六丁目10番1号六本木ヒルズ森タワー14階

＜お問い合わせ先＞

お問い合わせダイヤル：(03)6447-3100

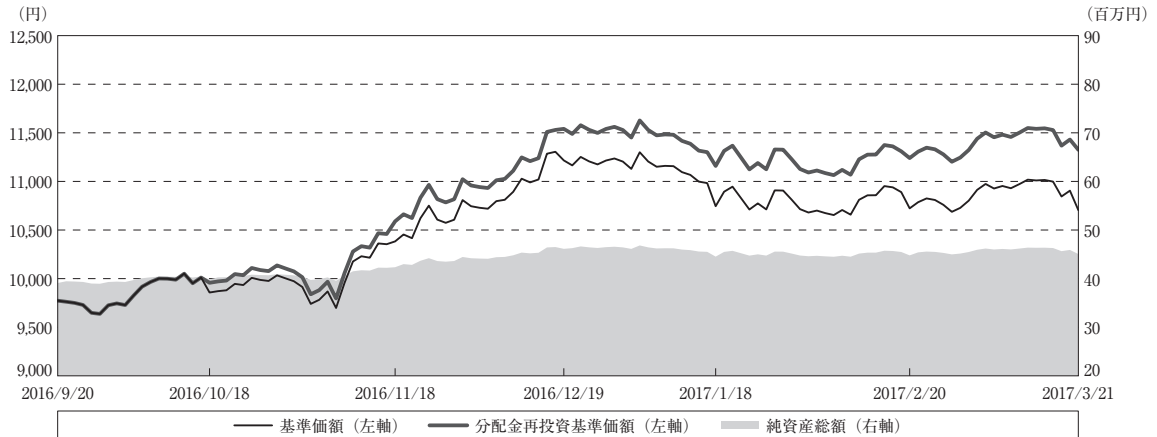
(受付時間：毎営業日の午前9時から午後5時)

ホームページ <http://www.invesco.com.jp/>

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

（2016年9月21日～2017年3月21日）



第7期首：9,773円

第12期末：10,704円（既払分配金（税込み）：600円）

騰落率：15.9%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、作成期首（2016年9月20日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

[上昇要因]

- ・日本を含む世界の様々な債券、株式等を実質的な主要投資対象とし、債券、株式の銘柄選択にあたって高いインカムに着目した結果、株式の配当や債券のクーポン収入を通じて着実にインカム・ゲインを獲得したことが基準価額の上昇要因となりました。
- ・債券、株式等の資産配分については、自由度の高い運用手法を用いて積極的に変更した結果、当作成期において価格が大きく上昇した株式やハイ・イールド債券の組入比率を高位に維持していたことが、基準価額の上昇要因となりました。
- ・実質外貨建て資産について対円での為替ヘッジを行わなかったため、当作成期において為替市場が円安/米ドル高で推移したことが、基準価額の上昇要因となりました。

[下落要因]

- ・市場で景気回復に対する期待が高まったことに加え、米国が財政拡張的な政策をとるとの観測が強まったことを背景に、国債をはじめとする投資適格債券の利回りが上昇（債券価格は下落）したことが、基準価額の下落要因となりました。

1 万口当たりの費用明細

（2016年9月21日～2017年3月21日）

項 目	第7期～第12期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	円 44 (3) (40) (2)	% 0.420 (0.027) (0.377) (0.016)	(a) 信託報酬 = 作成期間の平均基準価額 × 信託報酬率 ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価 ファンドの財産の保管・管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用 (監 査 費 用) (印 刷 費 用) (そ の 他)	6 (4) (2) (0)	0.054 (0.038) (0.016) (0.000)	(b) その他費用 = 作成期間のその他費用 ÷ 作成期間の平均受益権口数 監査費用は、監査法人に支払うファンドの監査に係る費用 印刷費用は、目論見書や運用報告書等の法定書類の作成・印刷に要する費用等 その他は、外国有価証券に係る税金および信託事務の処理に要するその他の費用等
合 計	50	0.474	
作成期間の平均基準価額は、10,504円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

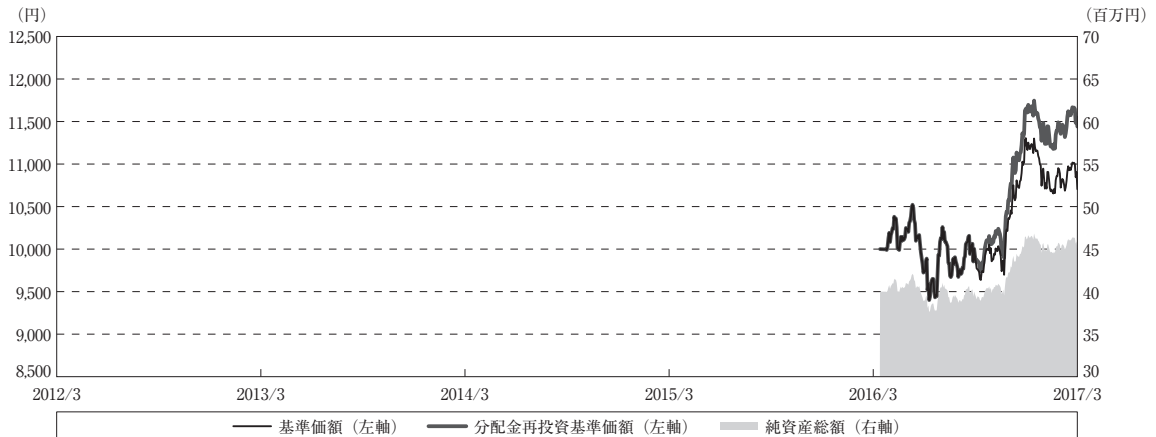
(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く）が支払った費用を含みません。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移

（2012年3月19日～2017年3月21日）



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 当ファンドの設定日は2016年4月1日です。

	2016年4月1日 設定日	2017年3月21日 決算日
基準価額 (円)	10,000	10,704
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	700
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	14.4
純資産総額 (百万円)	40	45

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 設定日の基準価額は、設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、騰落率は設定当初との比較です。
- (注) 当ファンドは、自由度の高い運用手法を用い、市況動向に応じて債券、株式等の資産配分を積極的に変更する運用を行うため、当ファンドと比較する適切なベンチマークまたは参考指数が存在しません。このためベンチマークまたは参考指数を掲載していません。

投資環境

（2016年9月21日～2017年3月21日）

<株式市場>

S & P 500指数（米国）	+9.5%	F T S E 100指数（英国）	+8.0%
D A X 指数（ドイツ）	+15.1%	C A C 40 指数（フランス）	+14.0%

※株価指数の騰落率は当作成期末時点（対前作成期末比）の数値です。

当作成期の株式市場は、米国大統領選挙の影響から下落する局面もあったものの、①米中のマクロ経済指標が堅調となったこと、②石油輸出国機構（OPEC）での減産合意などを背景に鉄鉱石や原油などの資源価格が大きく上昇したことに加え、トランプ米新政権の政策に対する期待などから、前作成期末比で大きく上昇しました。

米国では、2016年11月の米国大統領選挙で共和党のトランプ候補が勝利を収めたことをきっかけに、今後の税制改革や規制緩和などの期待感から株価は大きく上昇しました。2017年1月のトランプ大統領就任後は同氏の保護主義的な言動が強く意識されるようになり、株価は一時調整しましたが、好調な主要経済指標の発表など底堅い米国経済が好感され、上昇基調を維持したまま作成期末を迎えました。

欧州では、当作成期の前半はイタリアやドイツの主要銀行の経営不安が大陸欧州株式市場の下落要因となりました。英国では英ポンド安が株式市場の押し上げ要因となりましたが、米国の大統領選挙をめぐる不透明感が上値を抑えました。その後、欧州中央銀行（ECB）による金融緩和の延長とイタリア政府による銀行の支援が決まると、年末にかけて株価は大きく上昇しました。2017年に入ると、欧州企業の好決算や米トランプ政権への期待の一方で、英国の欧州連合（EU）からの強硬離脱リスクが再燃したことやフランス大統領選挙に関する不透明感などから、株価は一進一退の推移となって作成期末を迎えました。

<債券市場>

米国10年国債利回り 2.42%（前作成期末 1.69%）	英国10年国債利回り 1.25%（同 0.81%）
-------------------------------	---------------------------

※上記は当作成期末の数値です。

当作成期間中、米国および欧州の金利は上昇しました。

米国では、2016年11月の大統領選挙で大幅な減税やインフラ投資の拡大など積極的な財政政策を掲げるトランプ候補が勝利を収めたことをきっかけに、リスク資産が買われる一方で安全資産とされる国債が売られた結果、金利は上昇しました。米連邦公開市場委員会（FOMC）が2016年12月および2017年3月に追加利上げを決定したことに加え、2017年の政策金利の予想水準が引き上げられたことも、金利の上昇を促す材料となりました。

欧州では、2016年9月のECB定例理事会でドラギ総裁が追加緩和に淡白な姿勢を示したことを受け、各国の長期金利が上昇しました。その後、12月にECBが金融緩和の延長を発表したことやイタリアの国民投票で改憲否決となったことでいったんは金利が低下（債券価格は上昇）する局面もありましたが、2017年1月以降は①ECBの量的緩和が解除に向かう可能性が意識されたこと、②ドイツの消費者物価指数（CPI）が上昇したこと、③米国金利の上昇などを背景に、前作成期末を上回る金利水準で作成期末を迎えました。

<為替市場>

<対円為替レート>

1米ドル=112円40銭（前作成期末101円95銭）

※当作成期末の数値です。

為替市場では、①米国大統領選挙の結果を受けて財政拡張的な政策がとられるとの見方が広がったこと、②景気回復期待が高まったこと、③FOMCが追加利上げを決定したことなどを背景に、米ドル高が進行しました。

当ファンドのポートフォリオ

（2016年9月21日～2017年3月21日）

インベスコ 世界インカム資産 マザーファンド（以下、マザーファンドといいます。）を高位に組み入れ、日本を含む世界の様々な債券、株式等に実質的に投資しました。債券、株式の銘柄選択にあたっては、高いインカムに着目しました。また、債券、株式等の資産配分は、自由度の高い運用手法を用いて積極的に変更を行いました。残余部分はインベスコ マネープール・ファンド（適格機関投資家私募投信）（以下、マネープール・ファンドといいます。）を組み入れ、安定した収益の確保を図りました。また、実質外貨建資産については、対円で為替ヘッジは行いませんでした。

マザーファンドでは、主としてルクセンブルグ籍外国投資法人インベスコ グローバル・インカム・ファンド クラスC-Acc投資信託証券（米ドルヘッジ）およびクラスC-QD投資信託証券（米ドルヘッジ）に投資を行いました。同外国投資信託では、主として日本を含む世界の様々な債券、株式等に投資を行い、各資産への配分比率を機動的に変更しました。具体的には作成期を通じて株式とハイ・イールド債券の組み入れを高位としました。国別配分では、米国、英国、イタリア、フランスを中心に運用を行いました。

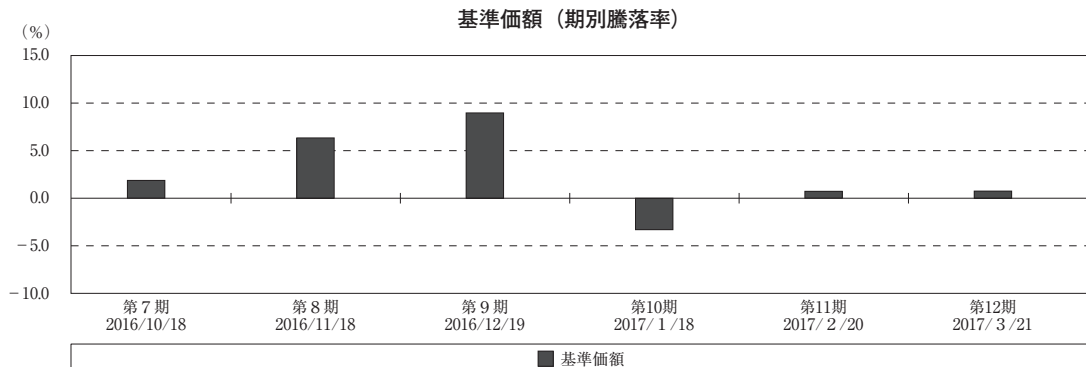
マネープール・ファンドでは、資産規模などを勘案し、短期金融商品による運用を行いました。

当ファンドのベンチマークとの差異

（2016年9月21日～2017年3月21日）

当ファンドは、運用の目標となるベンチマークや参考指数を設けておりません。

下記のグラフは、当作成期間中の当ファンドの期別基準価額騰落率（分配金込み）です。



（注）基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

分配金

（2016年9月21日～2017年3月21日）

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向および残存信託期間などを勘案し、第7期から第12期まで100円（全て税込み）とさせていただきます。収益分配金に充てなかった収益につきましては、信託財産に留保して元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第7期	第8期	第9期	第10期	第11期	第12期
	2016年9月21日 ～2016年10月18日	2016年10月19日 ～2016年11月18日	2016年11月19日 ～2016年12月19日	2016年12月20日 ～2017年1月18日	2017年1月19日 ～2017年2月20日	2017年2月21日 ～2017年3月21日
当期分配金	100	100	100	100	100	100
（対基準価額比率）	1.004%	0.954%	0.884%	0.922%	0.924%	0.926%
当期の収益	—	—	—	—	—	55
当期の収益以外	100	100	100	100	100	44
翌期繰越分配対象額	7,663	7,563	7,463	7,363	7,263	7,218

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

マザーファンドを高位に組み入れ、日本を含む世界の様々な債券、株式等を実質的に投資します。債券、株式の銘柄選択にあたっては、高いインカムに着目します。債券、株式等の資産配分は、自由度の高い運用手法を用いて積極的に変更を行います。残余部分はマネープール・ファンドを組み入れ、安定した収益の確保を図ります。実質外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行わない方針です。

マザーファンドでは、ルクセンブルグ籍外国投資法人インベスコ グローバル・インカム・ファンド クラスC-Acc投資信託証券（米ドルヘッジ）およびクラスC-QD投資信託証券（米ドルヘッジ）に投資を行います。同外国投資信託では、主として日本を含む世界の様々な債券、株式等に投資を行い、各資産への配分比率を機動的に変更する方針です。市場動向に応じて債券、株式、キャッシュ等への資産配分を積極的に変更し、発行体企業のファンダメンタルズ分析やリスク・リターンバランスを考慮しながら銘柄選定を行う方針です。投資先のセクターにおいては、金融セクター、特に金融劣後債に魅力的な投資機会があると考え、中長期的に強気の見通しを持っています。株式の銘柄選定においては、バランスシートが健全かつ魅力的な配当水準が期待できる企業に投資を行います。ファンドではキャッシュや国債などの流動性資産を多く保有しており、市場の変動率が高まる環境下ではプラスに作用すると考えています。引き続き、積極的に資産配分を調整し、相対的に高いインカム収益と中長期的な値上がり益の獲得を目指します。

マネープール・ファンドでは、円貨建ての短期公社債および短期金融商品を中心に運用を行います。

お知らせ

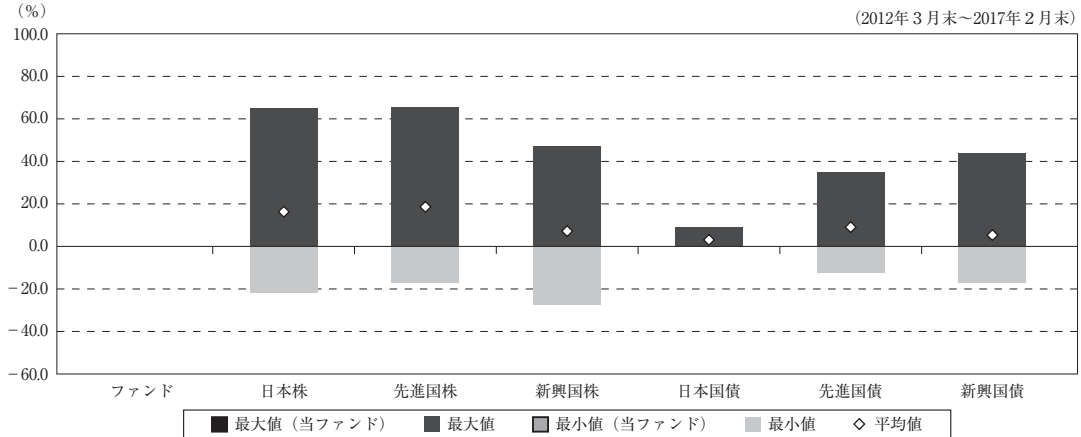
該当事項はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合	
信託期間	2026年3月18日まで	
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、主として日本を含む世界の様々な債券、株式等を実質的に投資することにより、安定した収益の確保と投資信託財産の着実な成長を図ることを目標として運用を行います。	
主要投資対象	インベスコ 世界インカム資産ファンド (毎月決算型)	「インベスコ 世界インカム資産 マザーファンド」および「インベスコ マネー プール・ファンド (適格機関投資家私募投信)」を主要投資対象とします。
	インベスコ 世界インカム資産 マザーファンド	別に定める投資信託証券 [*] へ投資し、主として日本を含む世界の様々な債券、株 式等を実質的に投資します。 ※別に定める投資信託証券とは、ルクセンブルグ籍外国投資法人インベスコ グ ローバル・インカム・ファンド クラスC-Acc投資信託証券 (米ドルヘッジ) ／クラスC-QD投資信託証券 (米ドルヘッジ) です。
	インベスコ マネープール・ファンド (適格機関投資家私募投信)	主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資します。
運用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・主として日本を含む世界の様々な債券、株式等を実質的に投資します。 ・債券、株式の銘柄選択にあたっては、高いインカムに着目します。債券、株式等の資産配分は、自由度の 高い運用手法を用いて積極的に変更を行います。 ・実質外貨建資産について、原則として、対円での為替ヘッジを行いません。 	
分配方針	原則として毎月の決算時（毎月18日、該当日が休業日の場合は翌営業日）に委託会社が、基準価額水準、市 況動向、残存信託期間等を勘案して分配を行います。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合が あります。	

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	—	16.3	18.6	7.2	3.1	9.0	5.3
最大値	—	65.0	65.7	47.4	9.3	34.9	43.7
最小値	—	-22.0	-17.5	-27.4	-0.2	-12.3	-17.4

(注) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2012年3月から2017年2月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を表示したものです。なお、当ファンドの騰落率につきましては、運用期間が1年未満であるため掲載しておりません。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

《各資産クラスの指数》

日本株：TOPIX（東証株価指数）（配当込み）

先進国株：MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債：NOMURA - BPI国債

先進国債：シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガンGBI - EMグローバル・ダイバーシファイド（円ベース）

※各指数についての説明は、P13の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2017年3月21日現在)

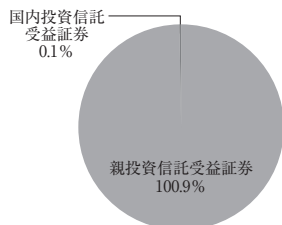
○組入上位ファンド

銘柄名	第12期末
	%
インベスコ 世界インカム資産 マザーファンド	100.9
インベスコ マネーブール・ファンド（適格機関投資家私募投信）	0.1
組入銘柄数	2銘柄

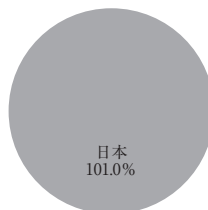
(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

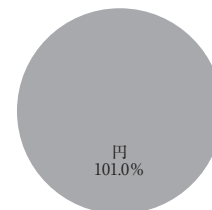
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては、発行体の国籍（所在国）などを表示しております。

純資産等

項目	第7期末	第8期末	第9期末	第10期末	第11期末	第12期末
	2016年10月18日	2016年11月18日	2016年12月19日	2017年1月18日	2017年2月20日	2017年3月21日
純資産総額	39,833,593円	42,345,805円	46,128,112円	44,525,263円	44,783,111円	45,056,946円
受益権総口数	40,410,770口	40,784,647口	41,127,740口	41,438,632口	41,762,733口	42,092,477口
1万円当たり基準価額	9,857円	10,383円	11,216円	10,745円	10,723円	10,704円

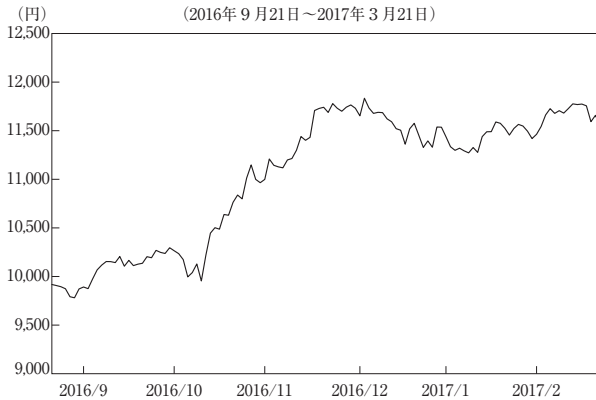
* 作成期間（第7期～第12期）中における追加設定元本額は2,093,921円、同解約元本額は3,389円です。

組入上位ファンドの概要

インベスコ 世界インカム資産 マザーファンド

【基準価額の推移】

(2016年9月21日～2017年3月21日)



【1万口当たりの費用明細】

(2016年9月21日～2017年3月21日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) その他の費用(その他)	0円 (0)	0.000% (0.000)
合計	0	0.000

期中の平均基準価額は、10,951円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書（全体版）をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

【組入上位ファンド】

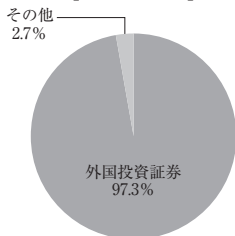
(2017年3月21日現在)

銘柄名	第2期末
インベスコ グローバル・インカム・ファンド クラスC-QD	97.3%
組入銘柄数	1銘柄

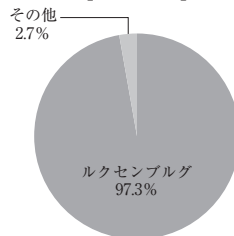
(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

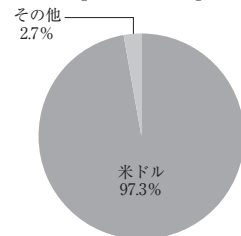
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては、発行体の国籍（所在国）などを表示しております。

(注) その他には現金等を含む場合があります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照ください。

（参考情報） ルクセンブルグ籍外国投資法人
インベスコ グローバル・インカム・ファンド

「インベスコ 世界インカム資産 マザーファンド」が主要投資対象としている「インベスコ グローバル・インカム・ファンド」の直近の情報は以下の通りです。

【組入上位10銘柄】

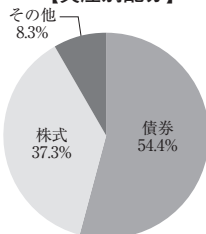
（2016年2月29日現在）

	銘柄名	種別	国	比率 %
1	United States Treasury Note/Bond 2.25% USD 15/11/2025	債券	アメリカ	7.4
2	United States Treasury Note/Bond 2% USD 15/08/2025	債券	アメリカ	4.8
3	Lloyds Bank Plc FRN GBP Perpetual	債券	イギリス	1.9
4	Co-Operative Bank Plc 5.125% GBP 20/09/2017	債券	イギリス	1.6
5	Premier Foods Finance Plc 6.5% GBP 15/03/2021	債券	イギリス	1.5
6	BT Group Plc	株式	イギリス	1.3
7	British American Tobacco Plc	株式	イギリス	1.2
8	Novartis AG	株式	スイス	1.1
9	UniCredit SpA FRN USD Perpetual	債券	イタリア	1.1
10	Philip Morris International Inc	株式	アメリカ	1.1
	組入銘柄数		149銘柄	

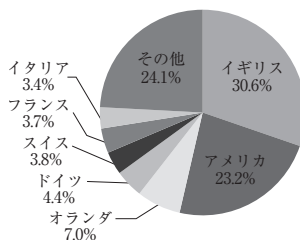
（注）比率は、純資産に対する割合です。

（注）組入銘柄に関する詳細な情報につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】

必要な情報が開示されておりません。

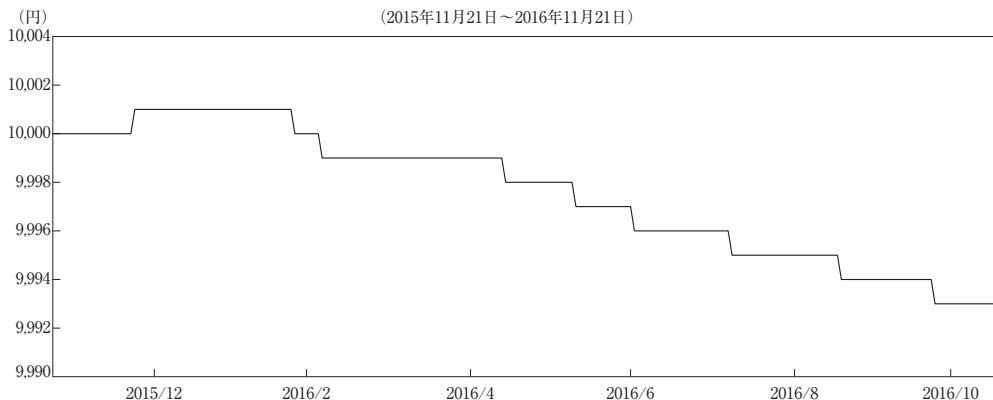
（注）比率は、純資産に対する割合です。

（注）その他には現金等を含む場合があります。

インベスコ マネープール・ファンド（適格機関投資家私募投信）

【基準価額の推移】

(2015年11月21日～2016年11月21日)



【1万口当たりの費用明細】

(2015年11月21日～2016年11月21日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	0円 (0) (0) (0)	0.000% (0.000) (0.000) (0.000)	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、 法定書面等の作成、基準価額の算出等の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各種資料の送付、口 座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価 ファンドの財産の保管・管理、投信会社からの指図の 実行等の対価
(b) そ の 他 費 用 (そ の 他)	1 (1)	0.009 (0.009)	(b) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数 その他は、信託事務の処理に要するその他の費用等
合 計	1	0.009	
期中の平均基準価額は、9,997円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

組入資産の内容

(2016年11月21日現在)

2016年11月21日現在、有価証券等の組み入れはございません。

＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

○TOPIX（東証株価指数）（配当込み）

TOPIXは、東京証券取引所第一部に上場している内国普通株式全銘柄の株価を対象として算出した指数です。TOPIXは、東京証券取引所の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、東京証券取引所が有しています。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

○MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIコクサイ・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに対する著作権及びその他の知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他の知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。なお、円ベース指数については、委託会社がMSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、米ドルベース）に、当日の米ドル為替レート（WM/ロイター値）を乗じて算出しています。

○NOMURA - BPI国債

NOMURA - BPI国債は、野村証券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA - BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村証券株式会社に帰属します。

○シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、Citigroup Index LLCが開発した日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数で、著作権、商標権、知的財産権、その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。

○JPモルガンGBI - EMグローバル・ダイバーシファイド（円ベース）

JPモルガンGBI - EMグローバル・ダイバーシファイドは、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。円ベース指数については、委託会社がJPモルガンGBI - EMグローバル・ダイバーシファイド（米ドルベース）に、当日の米ドル為替レート（WM/ロイター値）を乗じて算出しています。

本指数は、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2017, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

訂正のお詫びとお知らせ

インベスコ 世界インカム資産ファンド（毎月決算型）の第1－6期（決算日：2016年9月20日）交付運用報告書におきまして、「組入上位ファンドの概要」で掲載しております『インベスコ マネープール・ファンド（適格機関投資家私募投信）』の【1万口当たりの費用明細】について、下記の通り記載に誤りがございました。ここに深くお詫び申し上げますとともに、訂正内容をお知らせいたします。

記

（該当ページ：第1－6期交付運用報告書 P.12）

【誤】

【1万口当たりの費用明細】

（2014年12月1日～2015年11月20日）

該当事項はございません。

【正】

【1万口当たりの費用明細】

（2014年12月1日～2015年11月20日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	1円	0.005%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(0)	(0.002)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等の対価
（ 販 売 会 社 ）	(0)	(0.002)	購入後の情報提供、運用報告書等各种資料の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
（ 受 託 会 社 ）	(0)	(0.001)	ファンドの財産の保管・管理、投信会社からの指図の実行等の対価
合 計	1	0.005	
期中の平均基準価額は、10,000円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

以上